

地域が学習の場に



先日(14日(水))の午前中、6年生は「東海道歴史探訪」という学習で、東海道に沿って、北は八ッ山橋から南は長徳寺(城南小隣)までを歩いて回りました。

当日は、区内の各所の案内をボランティア活動で行っていらっしゃるガイドの皆様においでいただき、2クラスが10の班に分かれて、「ガイド付き！」という大変贅沢な環境で地域巡りをした次第です。

長年この地域にお住いの保護者の方にとっては、当たり前の情報かもしれませんが、異動してきたばかりの私も含め、6年生の児童にとっては、初めて聞く話がたくさんあり、普段見慣れたこの地域が、ちょっと違う場所に感じられる時間になったのではないかと思います。

この地域は、「東海道の品川宿」ということは、通勤途中で毎日目にしており、子どもたちにもなじみある情報だと思えますが、例えば、台場小学校周辺について、明治初期の古い地図と今の地図を重ねて見てみると、台場小学校・幼稚園の敷地そのものが、当時の海岸線に作られた埋め立て地(台場)だったと実感できました。「だから『台場小学校・幼稚園』なんだ」と納得した瞬間です。

また、この道が東海道として大名行列が行きかっていたよりはるか昔、1000年以上前から、この地は、町として栄え、にぎやかに人が行きかう場所であったなどという歴史的事実を教えてください、私も大変驚きました。

私は区内で校長として3校目ですが、本校(園)の周辺ほど、昔を伝えるものが残っている(ただ残っているだけでなく、分かりやすく残そうと努力されている)地域は見たことがありませんし、話を聞いてみたいと思う場所がこんなに残っている場所もありません。さらに、詳しく案内をしてくださる方が手配できるとなると、こんなに恵まれた環境は他にはありません。

他の学年でも、地域を学習のフィールドにする予定があります。また、6月には幼稚園と保育園の園児が、地域でおみこしを担ぎます。まさに、地域に見守られ、育まれている子どもたちですね。